

若者がチャレンジできるまちづくり (若者チャレンジ拠点を軸とした関係人口創出)

静岡産業大学 経営学部 岩本ゼミ
(ウェルビーイング研究室)

指導教員：准教授 岩本武範

参加学生：佐藤 朱莉、古林 泰河、藤川 純平
西川 龍、大石 柁輝、坪井 琥珀

1 要約

本研究では、静岡県富士宮市に新設された「エキマエ Challenge House チリン」を活用し、若者の幸せを育むための都市コンテンツの開発・提案を行った。若者の幸福要素を明らかにするため、16歳から24歳の若者2,437名を対象にアンケート調査を実施し、ディリクレ分布を用いたトピック分析により幸福の主要要素を抽出した。その結果、「自己実現と経済的安定」「家族・人間関係のつながり」「食・生活・プライベートの充実」「好きなこと・趣味・推し活」「健康と安心・笑顔のある生活」の5つの要素が幸福感に寄与することが示された。

これらの要素と富士宮市の地域資源を掛け合わせ、具体的な都市コンテンツを提案し、チリンを拠点とした新たな若者支援のモデルを構築した。

2 研究の目的

本研究の目的は、

- 1) 若者が感じる幸福要素に基づいた都市コンテンツの検討
- 2) 富士宮市の地域資源を活用し、若者の定着や関与を促進する仕組みの提案
- 3) エキマエ Challenge House チリンを拠点とした
持続可能なウェルビーイング向上施策の検討

上記の3点とした。

当初の研究計画では、チリンにおいてイベントを実施するなどの検討をしていたが、今後の持続可能な仕掛けを検討するうえで、そもそものコンセプトメイクの必要性を鑑み、上記の通りに再設定をした。

3 研究の内容

本研究は以下の手順で進められた。

1. 若者の幸福要素の特定（本研究を進めるため研究室独自で実施）
16～24歳の若者2,437名を対象にアンケート調査を実施
ディリクレ分布を用いたトピックモデル分析により、幸福要素を抽出
2. 富士宮市の地域資源と幸福要素のマッチング
富士宮市の特性（例：ニジマス生産量日本一、観光資源、eスポーツなど）と幸福要素を組み合わせる
3. 若者の幸福を育む都市コンテンツの検討
チリンを活用した以下の都市コンテンツを提案
就活カフェ（ミヤコネ）：地元企業と若者をつなぐカフェ空間

- # アニメ&古着（ミヤ服）：バーチャル試着体験とアニメキャラコラボ
- # 農業・食（ミヤ鱒）：ニジマスブランド推進と営農アドバイザー育成
- # eスポーツバー（ミヤSake）：eスポーツと地酒のコラボレーション
- # 健康・安心拠点：週末ファームステイやスマート農業体験

このような要素を各種取組みに反映し、チリンを拠点に実現する流れで整理をしている。

4 研究の成果

(1) 当初の計画

当初の研究計画では、チリンにおいてイベントを実施するなどの検討をして市場の反応を評価する方式であった。

(2) 実際の内容

B：一部修正

※今後の持続可能な仕掛けを検討するうえで、そもそものコンセプトメイクの必要性を鑑み、再設定をした。チリン施設管理者、富士宮市役所（企画部企画戦略課地域政策推進室 担当 磯様）との打合せにて、「3 研究の内容」に記載の流れを確認済み。

※イベント実施形式からチリンのブランディングに必要なコンセプトや企画を科学的根拠をもとに検討する内容：関係人口創出などの検討を促進するため

C：中止の要素も含まれる（当初計画のイベント実施などを変更したため）

(3) 実績・成果と課題

実績・成果

本研究では、若者の幸福に関する要素を明確化するために、データ分析を用いたアプローチを採用した。具体的には、アンケート調査とテキストマイニングを通じて、若者が幸福を感じる要素を抽出し、それらを経済的安定・自己実現、家族や人間関係のつながり、食・生活・プライベートの充実、健康・安心・笑顔のある生活、好きなこと・趣味・推し活の5つのトピックに分類した。この分析結果に基づき、富士宮市の地域資源や特性を活かした都市コンテンツとの結びつきを検討し、若者が幸福を実感できる環境の創出に向けた具体的な提案を行った。

特に、本研究では「エキマエ Challenge House チリン」を活用し、若者が主体的に関わることができる仕組みの構築を提案した。これまでの都市計画やまちづくりの枠組みでは、行政や企業が主導する形が一般的であったが、本研究では、若者自身がコンテンツの企画・運営に関与し、彼らのアイデアや価値観がまちの活性化につながるモデルを提示した。このようなアプローチにより、単なる都市の整備に留まらず、地域コミュニティの活性化や若者の地域定着の促進にも寄与する可能性が示された。

加えて、富士宮市の強みである「ニジマス日本一の生産量」といった地域資源を活かした施策も提案した。例えば、地元産食材を活用した飲食コンテンツの開発や、農業・食の分野での新たなキャリアパスを創出するプログラムの検討など、若者が地域産業と関わる機会を増やすことを視野に入れている。これにより、若者の幸福度を高めるとともに、地域経済の活性化にも貢献することが期待される。

課題

本研究を通じて得られた知見を実際のまちづくりに活かしていくためには、今後いくつかの課題が残されている。まず、提案した施策の有効性を検証するためには、実証実験の実施が必要である。本研究では、幸福要素と都市コンテンツの関連性をデータ分析に基づいて示したが、実際にそれが若者の幸福度向上に寄与するかどうかを検証するためには、具体的なプロジェクトを立ち上げ、一定期間運営する必要がある。特に、チリンを拠点とした若者の関与促進モデルについては、実際にどのような形で持続可能な運営ができるのか、試行錯誤を重ねながら検討を進めることが求められる。

また、地元事業者や自治体との連携強化も重要な課題である。都市コンテンツを実際に展開していくためには、地元の飲食業、観光業、農業などの事業者と協力し、実現可能な施策を共に考えていく必要がある。さらに、自治体の施策とも連携し、持続可能な運営資源の確保や、制度的な支援を得ることも不可欠である。特に、地域活性化に関する補助金や支援制度を活用することで、プロジェクトの継続性を高めることが可能となる。

さらに、若者が持続的に関与できる仕組みの構築も大きな課題である。短期間のイベントや一過性の取り組みではなく、若者が継続的にまちづくりに関わることができる仕組みを整備することで、地域の活性化につなげることができる。例えば、チリンを活用した若者向けのプログラムを定期的の実施し、彼らが自ら企画・運営する環境を整えることで、地域に愛着を持つ人材の育成につながると考えられる。

以上のように、本研究ではデータ分析に基づいた幸福要素の明確化と、それを活かした都市コンテンツの提案を行ったが、実証実験や地域との連携、持続的な関与の仕組みづくりといった課題が今後の重要な検討事項となる。

(4) 今後の改善点や対策

本研究で提案した若者の幸福向上に向けた都市コンテンツの実現に向けて、今後は具体的な試験的施策を展開し、その有効性を検証することが重要となる。まず、小規模な試験的イベントを開催し、若者の反応を検証することが求められる。チリンを拠点とした企画の中から、特に関心が高いと想定されるものをピックアップし、期間限定の試験的な運営を実施することで、若者の実際の参加率や満足度、継続的な関与の可能性などを測定する。例えば、「仕事×押し活カフェ」「アニメ飯×地元グルメ開発」「eスポーツ×地酒ナイト」など、異なるジャンルのイベントを試験的に実施し、どのような内容が参加者の興味を引き、持続的な活動につながるかを評価する。この過程で得られたフィードバックを基に、内容の改善や運営方法の最適化を図ることが重要である。

また、富士宮市内の他拠点と連携し、エリア全体の回遊性を高めることも今後の大きな課題の一つである。チリン単体での施策にとどまらず、市内の観光地や商業エリア、文化施設などと連携することで、若者が地域全体を楽しめる仕組みを構築することが望ましい。例えば、富士宮市が誇る「ニジマス日本一の生産量」を活かした地元グルメフェスとのコラボレーションや、歴史的な街並みを活かした「昭和・平成リバイバルファッションショー」といったイベントを組み合わせることで、参加者が市内を回遊しながら多様な体験を得られる環境を整える。特に、若者にとって魅力的なコンテンツが点在することで、富士宮市内への長期的な関与が期待できる。

さらに、地域事業者・県内外大学・自治体との共同プロジェクトとして展開することが、持続可能な取り組みのために不可欠である。都市コンテンツの提供や運営には、安定した資金調達と人的リソースの確保が必要であり、そのためには

官民連携の枠組みを構築することが効果的である。例えば、地元の飲食店や農業関係者と連携し、富士宮ブランドを確立するプロジェクトを展開する、また、大学と連携して「地域課題解決型の実習プログラム」を設け、学生が地域づくりに参画できる環境を整備するなど、多様な主体が関与する仕組みを整えることで、より実効性のある取り組みを展開できると考えられる。

このような改善策を実施することで、単なる一過性のイベントではなく、地域に根付いた持続可能なプラットフォームとしての「チリン」の役割を確立し、若者の幸福向上と地域の活性化の双方に貢献することが期待される。

5 課題提出者・地域への提言

本研究を通じて、若者の幸福向上には単なる就業支援だけでなく、地域の魅力と組み合わせた多面的な取り組みが重要であることが明らかになった。従来の就業支援は、主にキャリア相談やインターンシップなどの形式で提供されてきたが、若者が地域に愛着を持ち、持続的に関与するためには、仕事だけでなく、生活や趣味、コミュニティとのつながりを意識した施策が必要となる。例えば、「好きなことで生きる」トークイベントや、趣味を仕事にした人たちとの交流を通じて、若者が自身のキャリアとライフスタイルを一体として考えられる場を提供することが求められる。

また、チリンを活用した都市コンテンツの提供は、若者の幸福向上だけでなく、地域経済の活性化にも寄与する可能性がある。富士宮市には、豊富な食資源や観光資源、歴史的背景があり、これらを活かしたコンテンツを展開することで、地域全体の魅力を高めることができる。例えば、地元食材を使った「アニメ飯×地元グルメ開発」や、「昭和・平成リバイバルファッションショー」などの企画を通じて、若者だけでなく観光客も巻き込んだまちづくりを推進することが考えられる。こうした取り組みが、地域の事業者にも新たなビジネス機会を提供し、地域経済の持続的な発展につながる可能性がある。

さらに、若者が主体的に関与できる「挑戦の場」を増やすことで、持続的な関与を促すことが重要である。若者が地域で活動するためには、自由な発想を形にできる環境と、それを支援する仕組みが必要となる。例えば、チリンを拠点とした「若者チャレンジプロジェクト」や、「スタートアップ支援プログラム」の実施など、若者が新しいアイデアを実践できる機会を増やすことが有効である。また、失敗を許容し、試行錯誤を繰り返しながら成長できる環境を整えることで、若者の主体性を引き出し、地域との関わりを深めることができる。

本研究で得られた知見を活かし、今後は地域の多様な関係者と協力しながら、若者が活躍できる「挑戦の場」を創出し、地域全体の魅力向上と持続的な発展を目指すことが求められる。

6 課題提出者・地域からの評価

- チリン施設管理者：若者の幸せの視点に興味がある。ソーシャルGoodを創出し、そのあとに持続可能なビジネスを考えていくことにつなげたい。
- 富士宮市ご担当者：科学的な根拠に基づくウェルビーイングとの連動があると、今後の政策などにも反映しやすい。